

T16b 「あすか」による“failed cluster”候補天体の観測

橋本谷 磨志、林田 清 (大阪大理)

0806+20 は、X線観測衛星 EINSTEIN によって発見されたX線源である。EINSTEIN/IPC 上では広がったイメージを示している(但し90%信頼度で点源であることを棄却できない)にもかかわらず、 m_R で20.5等級までの追観測によっても銀河が検出されていない。このことから、始源ガスの cloud が銀河を形成できないまま収縮した、「銀河団になりそこなった」銀河団 (“failed cluster” of galaxies) の候補天体として報告されたものである (Tucker et al. 1995, ApJ, 444, 532)。

今回我々は「あすか」でこの天体の観測を行ない、対応するX線源を検出した。SIS のイメージでは有意な広がりは見られなかった。スペクトルからは赤方偏移した鉄輝線の兆候がみられ、これを He-like の鉄だと考えると0806+20の赤方偏移は0.65(中性の鉄と考えると $z=0.57$)となる。連続成分からは熱的か巾関数的かを区別することは出来ない。熱的と考えると典型的なリッチクラスターの性質をしめし、巾関数とすると photon index は2.0で Seyfert I型と consistent である。これらの結果から、我々はこの天体を、新たな遠方銀河団か、あるいは可視で非常に暗い AGN であろうと推定している。

解析結果の詳細についてポスターで議論したい。